

# 長生き楽しく

老いを支える

## 医の光景

<1>

すなど踏ん張ることが多く、膀胱の飛び出しも増えた。下着に擦れると痛い。排尿障害が悪化していく。

急に用を足したくなる。

漏らしたくないから、その都度お手洗いに行く。だからトイレのない所へは出掛けられない。

福岡県飯塚市で訪問介護に携わる59歳の女性は長いことこんな悩みを抱えている。トイレに縛られる生活がいつ始まったのか思い出せないほどだ。ただ、はつきりと「何かおかしい」と感じたのは50代に差しかかるところだった。

お風呂で体を洗っていたら、またの間からピンポンボールのような丸いものが飛び出している。手で押し込んだり浴槽で体を横にしたりすると戻るが、ひょんな拍子

にまた出てくる。

子宮が下がる病気があるのは知っていたが、女性は38歳のときに子宮を失っていた。「腸が出た」と驚いて近所の産婦人科を訪ねると、膀胱の一部だった。

女性を苦しめた病気は「骨盤臓器脱」という。骨盤の底で、膀胱や子宮、直腸を支える筋肉や韌帯が弱り、臓器が下がる。最も下がりやすいのは膀胱で、尿道より低くずり落ちると、

## 尿の悩みが消えると

「年だし、しょうがない」感をもたらしたりする。尿道が引つ張られるから尿漏れもある。緩みの原因は出産、閉経、加齢。立ち仕事の年齢のことだ。

「手術ならありますか」と言ふ。足が遠のいた。11年前の年の瀬のことだ。

その年の春から、パークの人にも多いそうだ。

「加えて最近は、力を使っている。介護の経験は今の仕事につながったが、抱き起こし上げる手術を受けた。

現代病のひとつ、と言つて

「いいかもしれません」。こ

う話すのは、臓器脱の治療に取り組む北九州総合病院（北九州市小倉南区）の野村昌良医師（41）である。

女性は今年1月、メッシン

「ウのシートを骨盤内に入れ心配もあった。メッシュ手術は数力所の小さな傷です

レが気になって仕方なかつ

たのに、先月のステージは晴れ晴れと歌えましたよと話してくれた。

泌尿器科といえば男性がかかるイメージが強かつたが、女性専門の外来をつくる医療機関も登場している。北九州総合病院のように、泌尿器科を意味する「ウロロジ」と婦人科の「ギネコロジー」とを合わせた「ウロギネ」という造語を掲げる所も出てきた。



(デザイン部・大串誠寿)

野村医師の外来診療日。泌尿器科の前は中高年の女性でいっぱいだった。

「あなたも野村先生ですか、で話が通じますよ」と

「あいさつ」で話が通りました。この女性は、今朝トイレを気にすることなくウォーキングを楽しんでいる。おしつこが快適になれば若返る。

年だからしようがないと言っていたおしつこの悩みに、医療が真剣に向き合いました。くだんの女性はいま、毎朝トイレを気にすることなくウォーキングを楽しんでいる。おしつこが快適になれば若返る。

別の臓器が下がってくることなどができるようサボートする、医療のいまを紹介します。

ここでは分かってもらえたという安心感なのか。コト

年を重ねても健やかに生きることができるようサポートする、医療のいまを紹介します。